

あの丘に上ると、トンネルを抜けると、
野山を越え、谷を疾走り、ふと振り向いた
夕陽の彼方に・・・海神L。

湾岸WIT

<http://www3.to/wanganwit>

ういっと東京本部

(ういっと東京新聞 21) <http://www.ad.wakwak.com/~nikochan/>

槍だって持ってるもん

04.04.30

「海神L。」

ういっとの次の公演予定が決まりました。

5/11(火)・12(水) 7:30pm～ 神楽坂 die pratzte にて。

平日公演ですが、ぜひ皆さん、劇場に足をお運びくださいね。

ところで、今回の『海神L』のめざすテーマは、「メロ」と「サスペンス」。

「メロ」というのは、着メロじゃないよ。「メロドラマ」の「メロ」。

ああいう、なんというか、ノスタルジックな、懐かしい、それでいて今のこの手にはつかめない、って感じ。

最近そういうドラマ、けっこうあったよね。『白い器』とか。

いや、ちがった。今のはちょっとねらいすぎた、すみません。

『砂の器』とか、そういう匂いがして、たまらなかった。サスペンスタッチだし。

やっぱり、見ている人を最後までひきつけるのは、サスペンスだと思うんだよね。

(だんだん口調が、キョロになってきた・・・)

推理ものって、結末が楽しみじゃない？ ついつい最後まで見ちゃう。

それをいうと、月10の『乱歩R』もいい線いっていた。映像から出てくる雰囲気もよかったし。

ただ、お久しぶりの役者を使いすぎちゃって、ゲストが出てくると、「ああ、この人犯人ね」とすぐわかってしまう。ああいうのは、どうかな？ 謎解きものとしては。

えびとって
器をアセル
海神C



それをいうと、以前にも書いたような気がするけど、『名探偵コナン』は30分の中に話を収めようとするあまりか、登場人物の十分な情報をこっちが得られないまま、謎解きが始まってしまう。

ああいうのも、どうなんだろう。推理ものとしては。

いえいえ、今回は、目指しているものは、

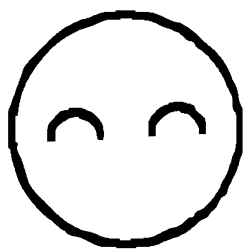
「メロ」で「サスペンス」ということを言いたかっただけで、

前述した作品を超えるとか、そういうことまで言っていません・・・。言えません・・・。

それでは、劇場で・・・。

「まいどあり。」

「お支払いは
銀ムツで
お願いします。」



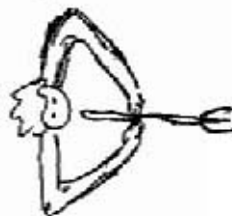
「……………」



「メロなんです。」

「あなたが落としたのは
金のムツですか？
銀のムツですか？
それとも
はかせるおムツですか??」

お払いをさめて
海神D



みなさんこんばんは、しなやかしなちゃんです。 **ういつとは今年で20周年！！**

そうなんです！！ 広島カープが最後に日本一になった、あの84年から、あつと言う間に20年——
——と言っても当時から私たちを知らない人へ。



あの頃(流行の?)路上でキスしていたカップルの中の一組が、
私たちです。

(あ、ガーギーはそれから10数年経って知り合ったからちゃうよ)
私もすっかり思い出を語る年頃になってしまいました。

私たちにとって、芝居は運動でした。

学生運動とは時代的にすれ違いだったため縁がなかったし、その後それぞれが保育運動や組合運動にかかわること
とはあったけど《それは必然性もあったし選んだことでもあったが》、

私たちにとっての本来の運動というのは、ういつとの活動のことを指す。
これはずーっと変わらない。

**日本においては、この20年は、運動というもの全般にとって、
「失われた、不毛の」20年という感が強い。**

(↑これは自分の世代の影響もあるのだろう。)

**「運動とか、人のための活動なんてやりたい人なんかいるわけない、そういう活動は年々先細りになるものだ」と
いう歪んだ史観が、我らの世代を覆っている。**

そう、私たちの世代は、
ガキの頃からクラス委員とか生徒会とかいうと、誰も手を挙げないのが普通で、それがずっと続いているだけ。

日頃は同世代がそう考えるのに対してかなり批判的な私とて、

何のことはない、自らもその呪縛を脱しきれないからこそ、釈迦力になって怒るのだ。

現在の30代から40代前半の運動にかかわる人たちが、共通して克服しなければならない課題である)

80年型運動の弊害から組織で行う運動の多くは抜けられないでいる。

(=「当たり障りなく、面倒は避けて、その場しのぎの無責任、でも上部が下部に・組織が個人に優先する等の
古い体質はそのまま→結果右下がり、先細り、形骸化) 組織の主流派を占める幹部も、それを批判する側も。

進歩のない堂々めぐりがされるだけで時は経ってしまうわ、運動というものに対する負のイメージは増長・定着
していくわ、踏んだり蹴ったり、とんだ迷惑な状況だったと言える。

カッコのついた運動。そしてアンチ(というより無視か)「運動」が街の空気に近くなる。

小劇場演劇をみても(私はあまり観ない方だしある時期からはほとんど行かなくなった)、描かれる世界や人々
が見るにたえないものになっていくのが感じられた。作品の良し悪しという意味ではない。

「人間の自己中で醜いところをこれでもかこれでもかで見せられる」

→それを作った人たちはきっと、チケットを買わせてそういう世界を見せたかったに違いない。

作品の良し悪し・うまい下手とは別に、そんなものなら自分は見たくないと思った。素直に不快だった。



ちなみに私にそういう気持ちを強く抱かせた公演でタイトルを覚えているものは、
たしか「メイド・イン・香港」という作品だったと思う。

この10数年の中では割合有名な作品だったと思うので、知ってる人は知ってるか?
何年前だか忘れたけれど、とにかくそのあたりから、小劇場をほとんど観に行かなくなった。

(あれ?この話って、前にも書いたことあったっけ?)

2004年、やはりわれらにとって、芝居とは運動である。

では、運動とは何なのか。

運動とは何か。集団で吊るし上げるものか 駄々っ子みたいに「くれくれ」言うものか？

幟を立てて存在を誇示したり、数の力で圧力をかけるのがそうか？

逮捕も辞さず敵に突撃かけるものか？

見え透いた理想を語って人をいい気持ちにだけさせるものか？

願いを卑小な現実にしすり替えて条件闘争でしょぼい成果を取って

これ見よがしに喜ぶ白々しいものか???

どれも違う。本質を捉えていない。

残念ながら、そういう風に誤解されて（あるいは悪意でそのように）語られる場合が多いが。

新明解国語辞典（初版）によると、運動とは

目的を達するために、いろいろな人（方面）に働きかけたりして、積極的に行動すること。

（ちなみに 物が時間の経過と共に位置を変えること。

からだを鍛え、健康を保つためにからだを動かすこと。とも言う）だと。

しかしそんな側面をなぞってないでもっと端的に言ってしまえば、

（って前にも言ったとあるとは思いますが）

運動とは、運命を動かしていくことである。

残念ながら、組織の事情で仕方なく？運動にかかわっている人々の多くは、

この運動というものの本質を理解していないし、したいとも思ってない。

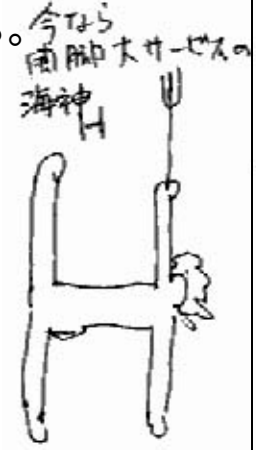
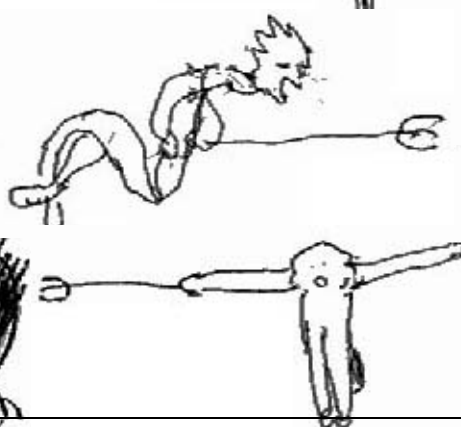
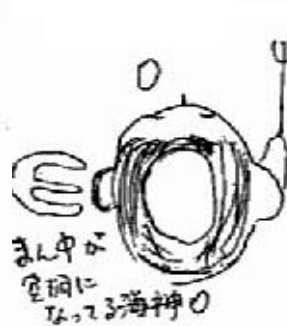
（仕方なくお勉強してる人やスポーツやってる人がどうなのかは、よう知らんが）

説明したところで、「ロマンチストの与太話」程度にしか受け取らないだろう。

でもホントはそうではない。

ロマンというより、「物の理」なのだ。 活動家は、アスリートなのだ。

理にかなった運動、理にかなった世界を求めて、ハンガー猛は今日も行く……



今年のカープは面白い。 いや、去年までも十分魅力的なチームだったのだが、

今年は勢いが違う。球場から足が遠のいてたファンが思わず行ってしまう、新しいファンが増えてしまう、そんな感じが、満ち溢れている。

決定的に強いわけではないし、ボロボロな負け方をすることも多い。だが、「なんかすごい」のだ。

ファンとしてはついつい、あんなことや（バカ！）こんなことも（エッチ！！）想像してしまう。

だが29年前の初優勝以来のカープファンとして、はっきり言っておこう。

「カープは残念ながら日本シリーズで敗れるだろう」

「ファンがそんな弱気でどうする」って？

っつーか、ここ何年かずーっと弱いのに慣らされちゃってて、どうしても自信が持てないわけよ。

日本一になれるだなんて！！

リーグ優勝するのがやっとなでしよう。

たしかに勢いはある。だが、まだまだ本当の強さではない。冷静に考えて、ダイエーや西武と闘って、勝てるとは到底思えない。

しかしじゃあなぜ、

「リーグ優勝はできる」と思うのか。

それはまだ、内緒である。

今年カープは、ファンの気分としては最悪に近い年明けを迎えた。前年の成績は「また」5位。

終盤2位争いしながら「でも」5位。

序盤から成績は低迷し、タイトル取るような選手もなく、ピーコの采配は精彩を欠き、阪神の独走を許し、なのにオーナーは早々とシーズン半ばに

「あと5年は監督を」と言い出す始末。

観客動員は100万人を切り、さらに追い討ちをかけるように、チームと選手とファンが大きな期待を寄せていた新球場の計画がパーになった。

期待できるのは、シーツが残留したことと、三村がヘッドコーチとして戻ってきて、ピーコの采配がちよっとはマシになってくれるだろうということぐらい。オフの話題や優勝予想からも、カープの力の字も出やしない。

しかしよく見てるファンたちは、これまでの戦力が確実に育ってきていることを知っていた。

黒田、高橋建に続き、河内、大竹が先発の戦力として計算できるだろう。デイビー、ブロックにベイルが加わり、少なくとも1人はそこそこ使えるだろう。佐々岡が中継ぎに回せる余裕が投手陣にできた。

実際シーズンが始まって、黒田、高橋、デイビーはまだまだが勝ち星はついてる。大竹が一番安定してて、河内も2回に1回は目を見張るピッチングを見せる。長谷川、小山田が故障でも、小林、玉木が出遅れても、永川、天野が今一つでも、まだ佐々岡に加えて澤崎、林がそこそこ計算できる。左の中継ぎ菊地原はまあ例年並みとしても、谷間の先発に玉山が加わり、横山、鶴田とまだ余力を残している。

少なくとも讀賣よりは、数段マシな投手陣である。

打つ方は、流行語となりつつある「赤ゴジラ」嶋の出現は、ファンにとっては「一軍で使ってくれさえすれば、間違いない」というくらい確信があった。

（よく見てなくてもオープン戦の時点でわかった）

また、昨年の後半から結果を出すようになってきた栗原が、野村からサードを奪わんとばかり、意欲的に練習に励む姿も伝わってきていた。

前田・野村が開幕に向けてしっかり調整できてること、若手といわれてきた人たちが中堅の年になり、去年4番の新井でさえもスタメン落ちもあり得る激しい競争。「誰を二軍に落とすか」？困るくらい。

実際にはそこそこ故障者が出た分うれしい悩みは減ったが、足のスペシャリスト福地や木村一が故障でも、木村拓も森笠も東出もなかなか出られないほど、戦力は充実し、選手は活躍している。「振ればヒット」の嶋に引っ張られてラロッカ・シーツが打点を挙げ、前田・野村が元気で栗原もサヨナラHRを打った。

4/29現在、チーム成績的には13勝11敗の2位といっても差がないようなものだが、かなり余裕を持ってこの数字である。一定のレベル以上の選手の層が揃ってきた。故障したり疲れたり壁にぶつかっても、替わりはちゃんといるんだぜ！！戦力的に、「優勝争いができる」ところまで充実してきた。

実はカープは開幕4連敗している。最初のカードで3タテを喰らったのが、落合新監督率いる中日である。

2004年、カープの開幕戦は「オレオレ詐欺」にまんまとやられた。

覚えている人もいるとは思うが、ナゴヤドームで行われたカープとの開幕戦に、「オレ流」落合・中日が出してきた先発投手は**何と！川崎……**。

ヤクルトからFA移籍したのに、3年間故障で一軍で投げられなかった投手である。

のみならず、去年は某巨大掲示板などで「祭」状態となり、一軍で投げてないにもかかわらずオールスターのファン投票で1位になってしまうという社会問題にもなった（これだけ日本が戦争シフト、中傷暴言当たり前になってる中で、球遊びごときで社会問題でもねーか）いわくつきの投手である。

さすがは落合、一味違う。ネタとしか思えん。

開幕を捨てゲームにしたか？

だが先発発表の時点で、私は最悪の結末を覚悟した。その予感、見事なほど筋書き通り当たってしまった。

カープの先発はエースの黒田。何気にG史上最強打線よりも怖いカープ打線は、2回に川崎を捕まえ、5点を取ってノックアウト。予想通りであった。

だが私は知っている。カープファンの多くも知っている。カープのベンチや選手たちも知ってるだろう。落合も中日の選手たちも、当然知ってることだと思う。**黒田は大量リードをもらうとよくないことを。**

黒田が投げて1-0とか2-1とかいう試合は結構ある。「黒田が投げると打たない」「打たないときは素晴らしい投球をする」裏を返せば5-0なら黒田を打ち込む隙は十分ある。何より心理的に両軍の選手もベンチも、そんな気になっただろう。すべてが落合の筋書き通りに進んでいく。

2回の裏にして「5点差を引っくり返す」という明確なテーマが見えた中日の打撃陣。投手がいい分、あまり打てないと言われてきたが、能力を引き出せばすごい選手は揃っている。徐々に追い上げる。一方カープは中日の誇る中継ぎ陣から追加点が取れない。ピジターでもあり、徐々に追い込まれていく黒田とカープ。そして「エースは完投」という頑固な信念を持つ監督がカープを率いているということも、落合の計算には当然入っていただろう。

黒田が打たれて逆転された時には、既に相手の勝ちパターンの投手リレーにはまった後だった。

先発投手を見て、普通に考えればまず「ごちそうさま」の試合をカープは落とした。エースの黒田で落とした。

一方中日は川崎で勝った。苦手のカープのエース、黒田を打ち込んで勝った。どう考えてもカープ的には暗雲立ち込めた。「落合の采配ナイスだぜ」（昔のパリーグというか、職業野球のようならせるものがあったね）とカープファンの俺でも思った。「何でピーコが監督なんだよ」と呪いたくもなった。

しかし、

悲惨な開幕戦から4連敗しても全然へこたれない勢い、元気のよさが今年はある。

昨年ボコボコにやられた阪神や最強(笑)讀賣巨人軍に堂々と打ち勝ち6連勝したゲームは圧巻だった。

落合中日が、そういうカープを目覚めさせてくれちゃったのかもしれない。

（今のところ苦手にしてしまっているが、ズバリ今年は中日とのV争いだろう。優勝したら礼いわないと。）

その後カープはここまで打ちまくって上位をキープするが、ところどころで開幕戦同様、頑固で不器用な監督の作戦、特に投手交代を見抜かれて、ヤクルトや横浜に気前よく白星を譲ったりもしている。

そんなんで大丈夫??とも思うが、この負けても頑固に動じない現有戦力への自信が、すごい強み、相手には脅威になっていくだろう。**それを1年通せたならば敵は道を譲るだろう。**

ファンとして監督の采配だけは、イライラするほど頑固、鈍感、旧式に感じるが、こればかりは仕方がない。



「あの55番と50番覚えときな。

今年必ず大活躍するから」

オープン戦を観に行った時、

☺に教えてあげたらその通り、

嶋は赤ゴジラとなって羽ばたき、

栗原も勝負強い打撃を見せている。

カープ観戦記録 2004

大田スタジアム 3・28

<http://park10.wakwak.com/>

~wittokyo/carp/carp2004.html

2004 開幕 25年の時を越えて、強い赤ヘルが21世紀に

よみがえる・・・か？ ～それは渋い脇役の活躍にかかっている～

「そろそろカープがやってくれる番でしょ」
昨シーズンを終え、シートが残留を決めた時点で
そう思った。

「いくら監督が頑固で不器用で

鈍感なピーコでも」

カープが最も強力打線を誇ったのは、78-80、
200発打線～連続日本一にかけてだろう。

この頃の打撃陣はすごかった。

そこで、今に例えると誰が一番近いだろうか、新年
早々痛み上がりの頭で考えてみた。

CARP'79 DEFAULT	04 希望オタ-	(新年当初)
1 ショト 高橋慶	サド	栗原
2 外野 三村	外野	木村拓
3 ライト ライトル	ショト	シート
4 センター 山本浩	センター	緒方
5 サド 衣笠	レフト	前田
6 レフト ギャレット	ファースト	新井
7 ファースト 水谷	ライト	浅井
8 キャッチャー 水沼	キャッチャー	倉

おお！キーボードを打つ手が震えるほど、
怖い打線・・・（あ、昔のほうね）

1 慶彦は今の世ならメジャーで活躍するレベルの選
手だ。同じ俊足タイプで釣り合う選手は今のカープに
はいない。タイプは全然違うが若くて粗いが凄みを買
って、栗原を考えてみた。

3 好打者、そして守備で魅せる外国人ってことで、
内外野違うが、シートがライトル的存在、と。

4・5 緒方には浩二のような4番に、前田には衣笠
のようにケガに勝ってほしい！という願いもある。

6 日本人離れした打球を放つ新井は、ホームラン量
産の願いをこめてギャレット、ってことで。

8 捕手には石原、木村一、西山といるが、強い時代
のカープの捕手に一番雰囲気似てたので倉、と。

そして2番と7番。木村拓が三村の、浅井が水谷の
役割を果たせば、カープは優勝できるだろう。

ベテラン野村が代打の切り札&抑え内野手、

これで完璧だ。

キムラと浅井、2人ともスーパーサブ的に言われる
ことが多いが、優勝すればキムラだって三村・木下・
山崎隆造と並んで称されるし、浅井が代打の時のあの
威圧感をスタメンでも出せば、「ファンですら怖いと
感じた打者」水谷に匹敵する存在になれると。

ところが、思わぬ（うれしい）誤算が起きた。

捕手はまあ、石原で行くのは見えてたからあれだけ
ど、野村が2000本安打という目標もあってか開幕
に合わせてしっかり調整し、栗原にサードはまだまだ
渡さぬ活躍ぶり。この辺は予想の範疇。

予想を上回ったのは、そう、

'04 現実のオタ-

1 センター	緒方
2 ライト	嶋
3 外野	ラロッカ
4 ショト	シート
5 レフト	前田
6 ファースト	新井
7 サド	野村
8 キャッチャー	石原

今やカープと言えどという
存在にまで知れわたった「赤
ゴジラ」嶋の台頭と、新外国
人・ラロッカ（地獄のロッカ
ーとは違う）が
「思ったより全然使える」
選手だったこと。
↑つか、チャンスに強いし
ガッツもあるし、
かなーりいい感じである。

今年の実際のスタメンは、大体こんな感じになった。

左の強打者浅井といろいろ守れて足もあるキ
ムラは、嶋・ラロッカとポジションやタイプが
思いっきりかぶってしまった。

浅井の場合はもともと代打が多かったので、嶋がす
ごすぎて一気に出し抜かれたって感じである。何年も
破れなかった壁を後輩に越えられるのは「！」だろう。

だが、嶋はここまで好調でもほとんど一軍で使われ
なかった。長い下積みがまさに「満を持して、開花」
というやつである。その話があちこちで語られるほど
鮮烈な活躍で、一気にスター選手に駆け上がった。

確実に3割程度の率を残す浅井が今シーズン調子が
上がってこないのは、偶々かもしれないけど、もしか
したら、同タイプの嶋の本家ゴジラ級の活躍に、思わ
ず「くうう、何であいつで俺じゃないんだ」と焦っ
てるところもあるのかもな、なんて。

一方木村拓は、毎年レギュラーをギリギリで争いながら、誰かが故障したところにしっかりおさまる、そういうしぶとい活躍をしてきた。

ただ、それでも翌年またレギュラー争いからなのは、飛びぬけて秀でたものというのがないということと（決め手がない、逆にバランスがいいので控えに置いとくと安心、とも思われやすい）、あとはチームが求める役割と本人のタイプが微妙にずれるところもあるのだろう。

チームとしては彼にはいわゆる「バントをしたり、しぶとくつなぐ2番打者」的なものを求める。1番であれば、何でもいいから出塁し、足でかき回すというような役割。

その仕事を彼はこれまで一生懸命やってきたし、そこその力は出してきた。だが前述の三村・木下・山崎ほどの名脇役としての絶対的な位置までは及ばなかった。優勝してないのももちろんあるが、

恐らくは元々そういうタイプではないのだと思う。

いや、確かに走者を返すと言うより出塁するタイプではあり、ランナー2塁ではあまり打てない。だが、時々すごいところで打つし、大物ピッチャーをよく打つ印象がある。足は速いが結構おっちょこちよいでよく刺される。守備でもいいと思ったらすごいポカやったりする。喜んだり悔しがったり沈んだり、結構感情の起伏が見えやすいファイターだったりもする。

三村と言うより、むしろ「出力の小さい長嶋茂雄」と言った方が近いのかもしれない。

<（倒れる前の）長嶋はキムラを五輪の代表に選ぶなど、結構気に入ってる感があったが、相通ずるものを実は感じてるのかもしれない>

「出力の小さい」というのは単純にパワーという意味ではなくて、精神的なものも大いに含んだスタミナってやつ。年間を通して集中力を持続させるにはちょっと足りない。打ちまくってると思ったら守備で気が抜けたり、絶好調で迎えたG3連戦で突如体の不調が生じたり。まるで風呂に給湯しているとキッチンではお湯が出ない我が家の給湯器みたいだ。

ここ最近のカープってチームそのものを象徴するようでもある。そういう意味で、一流になりきれない。

高橋建なんかモロそれ。

で、話を戻すと、ラロッカも内野を守り、足もあり、積極的な走塁やファイトあるプレーを見せる。木村にしてみれば、かぶってしまったわけだ。おっちょこちよいなとこまで似てる。

その上ラロッカにはホームランを量産できる力もある。いいところでタイムリーも打つし。木村が上回れるのは、外野が守れるということぐらいである。

だが外野は前田と緒方が健在で、レギュラーをやっとなつた嶋が離してなるものかの活躍が続いている。

というわけで、今年もキムラは代打代走守備固め、故障が出ればそこに入る、便利屋ということになりそうである。

チームが苦しい時、浅井とキムラにはどれだけ助けられたらだろうか。カープが優勝するためには、なくてはならない存在だ。

だが逆に言えばこの2人がレギュラーで安泰という状態になった時というのは、すなわち故障者続出で優勝争いどころでないということを示すということも、恐らく事実であろう。

2人共今シーズンは自己ベストの成績ではないかと予想していたが、チーム内に大きな壁が立ち上がった。**己がなんぼのもんか、試される時**だろう。


ここで現状に甘んじれば、

そこまでの選手だったということになる。

今のところカープの打撃陣が好調な中で、木村拓の出番は少なく、浅井はやることなすことなかなかうまくいかず、先日のヤクルト戦では2人のエラーで終盤逆転負けを喰らい、**運勢的にはドツボ**である。

だがキムラはその後の横浜戦でホームランとヒットを打ったし、浅井も開幕直後のノーヒットが続く状態ではなくなった。

このまま引き下がる選手ではない、そう信じている。

（しなやかしなちゃん ）



追伸：今シーズンの山本浩二監督はピーコめがねをかけてないようなので、もうピーコとは言えないではないか！！（巷でネタにされてるのに気がついたのかな??）

海神L。チケットのお求めは、

◀お近くに劇団員がない場合、郵便振替用紙を使って郵便局で振り込むと便利です。▶

◀記入の仕方▶

◎ 同封の郵便振替用紙をご利用ください

口座番号 00190-6-52257

加入者名 ういっと東京本部

① あなたの住所と氏名と電話番号を左右の下のほうにある「払込人住所氏名」に記入

② 「通信欄」に「チケット 枚 円」とお書きください。前売料金は1枚1000円です。(日付指定)
中学生以下の方、障害者・介助者の方は、半額の500円となりますので、それらの場合は明記してくださいね!

③ 合計金額を左右の上のほうにある「金額」の欄にお書きください。

→→→振替用紙と代金を郵便局の窓口に出せばO・K!

④ 公演当日、受領証を劇場までお持ちください。

チケットをお渡しします。

◀ネットバンクへの振り込みもできます▶

インターネットを使ってチケットのお買い求めができます。

1) はじめに「海神L」の秘密に迫る!のページ
<http://park10.wakwak.com/~wittokyo/yoyaku.html> より、
チケット予約フォームをクリックしてください。

2) このフォームで前売券(日付指定・1000円)の予約ができます。

中学生以下と障害者・介助者の方は、半額になります。
直接フォームのあて先にメールしてください。

3) 確認のメールを送りますので、ご確認の上、
公演前日までに指定の口座までお振込みください。

*手数料などはお客様負担をお願いします。

4) 受付で確認の上、チケットをお渡しします。

払込取扱票		通常払込料金 加入者負担	
02	口座番号 (右端にご記入ください)	金額	千 百 十 万 千 百 十 円
	00190-6-52257		
加入者名	ういっと東京本部	料	特殊
通		金	取扱
信			
欄			
払込人住所氏名	(郵便番号)	受	付
		局	日
	(電話番号)	附	印
裏面の注意事項をお読みください。(郵政省)			

払込票兼受領証	
口座番号	00190-6-52257
加入者名	ういっと東京本部
金額	千 百 十 万 千 百 十 円
払込人住所氏名	
受	付
局	日
附	印
金	
円	
特殊	
取扱	

切取らぬので郵便局にお出しください。
記載事項を訂正した場合はその箇所に訂正印を押してください。

ういっとは今年で20周年!!

5・7・9月に本公演があります。

第2弾は「SAMBA CARNIVAL」

◀あの3バカが帰ってきた!

人質家族もビックリの改訂再演総集編! >

7/16~18 神楽坂 die prazte にて



詳しくは、
ういっとのサイトも
ごらんください。

<http://park10.wakwak.com/~wittokyo/>

ういっと東京本部

nikochan@ad.wakwak.com

ネットラジオ

TOKYO WANGAN WIT

<http://park10.wakwak.com/~wittokyo/radio/>

GRANDSLUM 19 (2003.12)

「ニコ先生の講演会 in セキュリティホール」

「誰も知らない営業の田中(1)」

「疲労嶋あーぶ・三人の勇者」(2003年を振り返って)

こわいわ
「恐岩牛乳」他、今後続々上げていきます。乞うご期待!